

【教員の教育研究業績等】

|   |  |  |  |  |             |
|---|--|--|--|--|-------------|
| 氏名  | 志濃原 亜美   | 所属   | 幼児教育学科   | 職位   | 教授          |
| 研究分野  | 社会学関連分野  | 学位   | 修士(社会福祉学)  |  |             |
| 資格・免許   | 保育士、中学校教諭一種免許(社会)(平6中1第2865号)、高等学校教諭専修免許(公民)(平11高専第383号)博物館学芸員補、社会教育主事 |  |  |  |             |
| 担当教科  | 社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱ、施設実習指導、施設実習                                 |  |  |  |             |
| 教育上の能力及び職務上の実績に関する事項  |  |  |  |  |             |
| 事 項   |  |  |  |  | 年月日         |
| 1 教育方法の実践例<br>・講義科目では、小レポートを提出させ(8割以上書くことを義務付けている)、添削の上、返却し理解力、文章力及び漢字能力の醸成に努めている。<br>・演習科目では、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を向上させ、理論と実践の融合を図れるよう、ディスカッションの方法、プレゼンテーションの方法を提示しながら行っている。<br>・実習の事前学習では、実習先の種別について理解するとともに、施設保育士の役割が十分学べるよう、レポートを課し、添削指導している。  |  |  |  |  | 平成20年～現在に至る |
| 2 作成した教科書、教材<br>下記の著書について、授業で使用している。  |  |  |  |  | 平成20年～現在に至る |
| 3 教育上の能力に関する大学等の評価  |  |  |  |  |             |
| 4 実務の経験を有する者についての特記事項   |  |  |  |  |             |
| 5 その他   |  |  |  |  |             |
| 研究業績等に関する事項   |  |  |  |  |             |
| 著書、学術論文等の名称   |  | 単著<br>共著<br>の別   | 発行又は発表の年月  | 発行所、発表雑誌等又は<br>発表学会等の名称  |             |
| (著書)<br>1. 保育士養成課程「社会的養護内容」<br>2. 新保育ライブラリ(保育・福祉を知る)「児童家庭福祉【新版】」<br>3. 保育者・小学校教諭・特別支援学校教諭のための教職論<br>4. 保育士養成課程(改訂)「子ども家庭福祉」<br>5. 保育・教職実践テキストノート<br>6. 幼稚園・保育所・施設実習ー子どもの育ちと安全を守る保育者をめざしてー<br>7. 保育者・小学校教師のための道しるべ<br>8. 保育・教育・教育・施設実習ー子どもを理解し実践できる保育者をめざしてー<br>9. 乳幼児教育・保育シリーズ「子ども家庭福祉」<br>10. 乳幼児教育・保育シリーズ「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」<br>11. 新・実習指導概説ー保育・教育・施設実習ー<br>12. 新保育ライブラリ 保育・福祉を知る<br>子ども家庭福祉<br>13. 保育士をめざす人のための施設実習ガイド<br>14. みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉 |  | 共著<br>共著<br>共著<br>共著<br>共著<br>共著<br>編著<br>共著<br>共著<br>編著<br>共著<br>共著<br>共著<br>共著<br>編著 | 平成24年10月<br>平成26年3月<br>平成26年10月<br>平成28年3月<br>平成28年3月<br>平成29年5月<br>平成29年10月<br>平成30年4月<br>平成31年4月<br>平成31年4月<br>令和元年7月<br>令和元年12月<br>令和2年1月<br>令和2年4月 | 光生館<br>北大路書房<br>北大路書房<br>光生館<br>ふくろう出版<br>大学図書出版<br>学文社<br>大学図書出版<br>光生館<br>光生館<br>ふくろう出版<br>北大路書房<br>みらい<br>みらい |             |

|  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| <p>(学術論文)</p> <p>1. 「スウェーデンの学童保育の歴史ーストックホルムのワークコテージ創設期にみる児童福祉事業ー」</p> <p>2. 「保育実習(施設)において必要とされる資質や技術①ー保育士資格の専門性に関するー考察ー」</p> <p>3. 「保育実習における巡回訪問指導に関する研究ー保育所における巡回訪問指導のアンケートの全体像を通してー」</p> <p>4. 調査報告「保育所における保護者支援の現状と課題①ー保護者へのアンケートよりー」</p> <p>5. 報告書「保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発」(研究代表)</p>   | <p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>   | <p>平成20年1月</p> <p>平成24年3月</p> <p>平成29年3月</p> <p>平成31年3月</p> <p>平成31年4月</p>   | <p>洗足論叢36号</p> <p>秋草学園短期大学紀要第28号</p> <p>秋草学園短期大学紀要第33号</p> <p>秋草学園短期大学紀要第35号</p> <p>平成30年度全国保育士養成協議会学術研究助成報告書</p>   |
| <p>(その他)</p> <p>1. 学会発表「スウェーデンの学童保育士養成1」</p> <p>2. 学会発表「保育所実習における巡回指導の研究2」</p> <p>3. 学会発表“The Features of Family with Child Abuse Problems-The Secondary Analysis of 2003 &amp; 2008 Survey of Child Guidance Centre Cases-”</p> <p>4. 学会発表「施設実習における巡回指導の研究1」</p> <p>5. 学会発表「保育所における保護者支援の現状と課題」</p> <p>6. 学会発表「実習巡回訪問指導の方法に関する研究1」</p> <p>7. 学会発表「保育所における在園児童の保護者に対する支援1」</p> <p>8. 学会発表「実習巡回訪問指導の方法に関する研究2」</p> <p>9. 学会発表「保育実習における巡回訪問指導の再検討と有効な巡回訪問指導システムの開発1」</p> <p>10. 学会発表「保育実習における巡回訪問指導の再検討と有効な巡回訪問指導システムの開発2」</p> <p>11. 報告書「保育実習における巡回訪問指導の再検討と有効な巡回訪問指導システムの開発」</p> | <p>単独</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>研究代表</p> | <p>平成28年5月</p> <p>平成28年5月</p> <p>平成28年8月</p> <p>平成29年3月</p> <p>平成29年5月</p> <p>平成30年3月</p> <p>平成30年3月</p> <p>平成30年5月</p> <p>平成31年3月</p> <p>平成31年3月</p> <p>平成31年4月</p> | <p>日本保育学会第69回大会</p> <p>日本保育学会第69回大会</p> <p>第21回国際児童虐待防止学会</p> <p>第1回日本保育者養成教育学会大会</p> <p>日本保育学会70回大会</p> <p>第2回日本保育者養成教育学会大会</p> <p>第2回日本保育者養成教育学会大会</p> <p>日本保育学会71回大会</p> <p>第3回日本保育者養成教育学会大会</p> <p>第3回日本保育者養成教育学会大会</p> <p>平成31年度全国保育士養成協議会学術研究助成</p> |